

製品名: ARF GAP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07097**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、サル、ウシ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	ARFGAP1
別名	ARFGAP1; ARF1GAP; ADP-ribosylation factor GTPase-activating protein 1; ARF GAP 1; ADP-ribosylation factor 1 GTPase-activating protein; ARF1 GAP; ARF1-directed GTPase-activating protein
遺伝子 ID	55738.0
SwissProt ID	Q8N6T3
免疫原	抗血清はヒト ARFGAP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

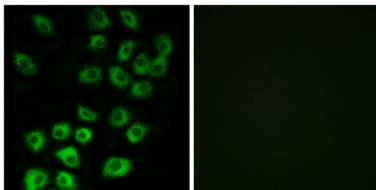
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は GTPase 活性化タンパク質であり、ゴルジ体と会合し、ADP リボシル化因子 1 と相互作用する。コードされるタンパク質は、ADP リボシル化因子 1 に結合した GTP の加水分解を促進し、ゴルジ体由来の膜および小胞からのコートタンパク質の解離に必要である。コートタンパク質の解離は、これらの小胞を標的コンパートメントと融合させるために必要である。このタンパク質の活性はホスホイノシドによって刺激され、ホスファチジルコリンによって阻害される。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2013 年 7 月],domain:Arf-GAP ドメインの下流領域は、in vivo で GAP 活性に必須である。この領域は、ゴルジ体膜への標的化に必要である可能性がある。function:ADP リボシル化因子 1 (ARF1) の GTPase 活性化タンパク質 (GAP)。膜輸送および / または小胞輸送に関与する。ARF1 に結合した GTP の加水分解を促進するため、ゴルジ体由来の膜および小胞からのコートタンパク質の解離に必要であり、これは小胞が標的コンパートメントと融合するための前提条件である。KDEL タンパク質および RNP24 との相互作用を介して、ARF1 を介した輸送を制御すると考えられる。過剰発現は、ARF1 が不活性化された場合と同様に、ゴルジ体全体の小胞体への再分配を誘導する。その活性はホスホイノシドによって刺激され、ホスファチジルコリンによって阻害される。配列注意: イントロン保持。類似性: 1 つの Arf-GAP ドメインを含む。細胞内局在: ゴルジ体と関連。サブユニット: ARF1 と相互作用する。COPI コートタンパク質、KDEL1、および RNP24 と相互作用する。RNP24 との相互作用は GAP 活性を阻害します。

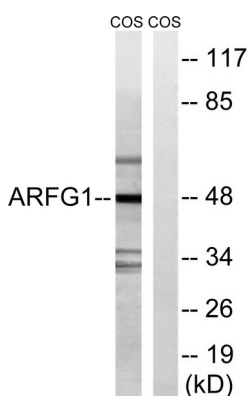
研究分野

エンドサイトーシス;

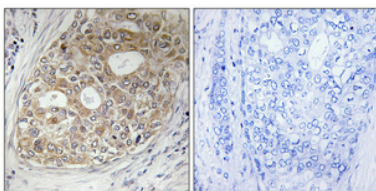
画像データ



ARFGAP1 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ARFGAP1 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。